

言語少数派の子どもの体験と教科学習が連動した作文の意義 —母語と日本語による教科学習支援から—

滑川（なめかわ）恵理子 大阪大学国際教育交流センター

1. 研究背景

- ◆教科学習が困難
 - ☞特に「書くこと／作文」
- ◆授業(教科学習)に関心や実感がもてない
 - ☞体験への着目

2. 先行研究

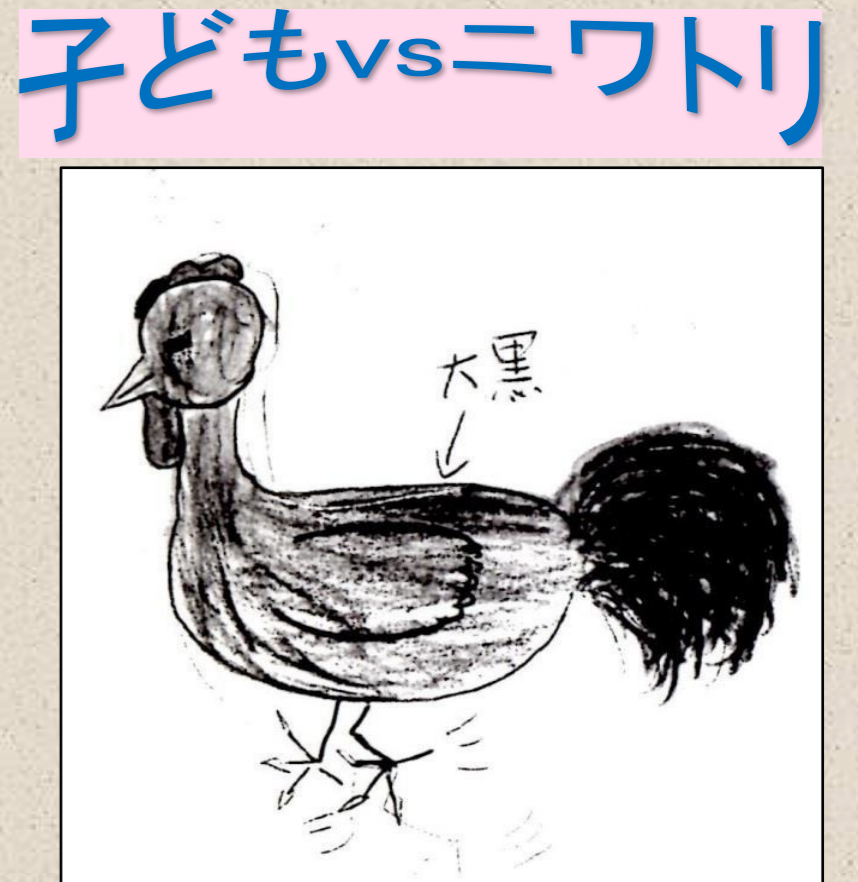
- ◆齋藤(2001)出来事作文／作文単独の取組 ◆菅原・齋藤(2016)作文力調査／言語能力の指標
- ◆Nessel& Dixon(2008):LEA(Language Experience Approach)
 - 「書く」ための体験的授業／第二言語(英語)の育成／言語的文化的多様性?
- ◆Cummins& Early(2011):Identity Textsの理念
 - 絵本、ポスター、ビデオなど書く活動を含む創作作品／固有の体験:言語的文化的多様性
 - 自己のアイデンティティを投影／可能なら家庭言語と授業言語

3. 研究目的、分析方法

- ◆体験と教科学習が連動した作文にどのような意義あるのかを探る
- ◆固有の体験に着目し支援者と子どものやり取りを質的に分析

やり取りデータ:書くプロセスに働きかける支援

- ◆支援者(発表者)が質問し、子どもの発話を促す
- ◆体験を引き出し、対話の結果をメモ
- ◆子どもの応答を核に表現を提案、文を構成
- ◆支援者が書いたものを提示、子どもが清書



4.1 実践のフィールド

- ◆日本語指導協力者(発表者)による日本語指導の実践:小6まで約4年
- ◆『教科・母語・日本語相互育成学習』(岡崎1997)に基づく☞母語と日本語で教科学習
- ◆国語教材文『大造じいさんとガン』(小学校5年生) 2012年12月
- ◆固有の体験:直前に里帰り、似ている体験

おばさんの農場でニワトリと戦った!

4.2 対象の子ども:Y

- ◆女兒 ◆中国帰国者家庭
- ◆日本生まれ、幼児期は両国を行き来
- ◆5歳から中国で生活、中国で就学
- ◆小2終了時に帰国、小3に編入
- ◆当時小5、10歳、帰国から3年ほど
- ◆作文は苦手

分析 5.1 体験を語る①:支援者主導から子ども主導へ

T:ニワトリは全部で30羽くらいいる。その中に? I
 Y:その中にえらそうな R
 T:偉そうな!いいね!偉そうな E I 教師の開始(Initiation)
 Y:ニワトリ R 生徒の応答(Reply)
 T:偉そうな1羽の... I 教師の評価(Evaluation)
 Y:ニワトリ R Mehan(1985)
 T:ニワトリがいた。E ...给它起个名字吧!【そのニワトリに名前をつけようよ!】何か、名前付けられない?
 Y:黒い。
 T:じゃ、「黒」にしようか、何で「黒」なの? ↑ 支援者主導
 Y:えーだって。我画它吧【ニワトリの絵を描くね】。↓ Y主導
 T:あー、个子高【背が高いんだ】。
 Y:《絵を描きながら》これ(首)が、なんか、こっち 高く
 T:首がそっくり返ってる感じなんだ。首がそっくり澄んだ声返っている
 子ども 絵・鳴き声 → 支援者から表現を引き出す

固有の体験(子どもの中)⇔主体性、作文が楽しい

分析 5.2 体験を語る②:母語への切り替え

T:じゃあ、名前は?わたしは名前をつけた。《書く》黒?
 Y:黒?なんか、羽・普通のトリ
 T:大黒怎么样?【大黒はどう?】
 Y:うん。《頷く》
 T:わたしはその美しい声をもった・《書く》
 Y:一开始吧,我觉得,它挺漂亮的。应该是很,很可爱,很帅的トリ吧,后来没想到它来撞我!【《目線をTの方から前方の少し離れたところに向ける。目線を宙に浮かせるような様子で語り始める》最初見た時、わたし、このニワトリ、何てきれいなんだろうって思ったの。とっても可愛い、かっこいいトリだなあって。そうしたらね、急にわたしにぶつかって来たの!】
 T:ああーああー《頷く》
 Y:我没有准备,然后去那个直接去给它喂食。然后吧,它蹿过来,来我撞过。多亏我跑得快!【わたし油断してた。ニワトリたちに手で直接餌をやっていたの。そうしたら、突然、あいつがぴよんと飛び跳ねて、わたしにぶつかってきたの!わたし、上手にさっと逃げたけどね!《ニワトリの動きを指で表現》】

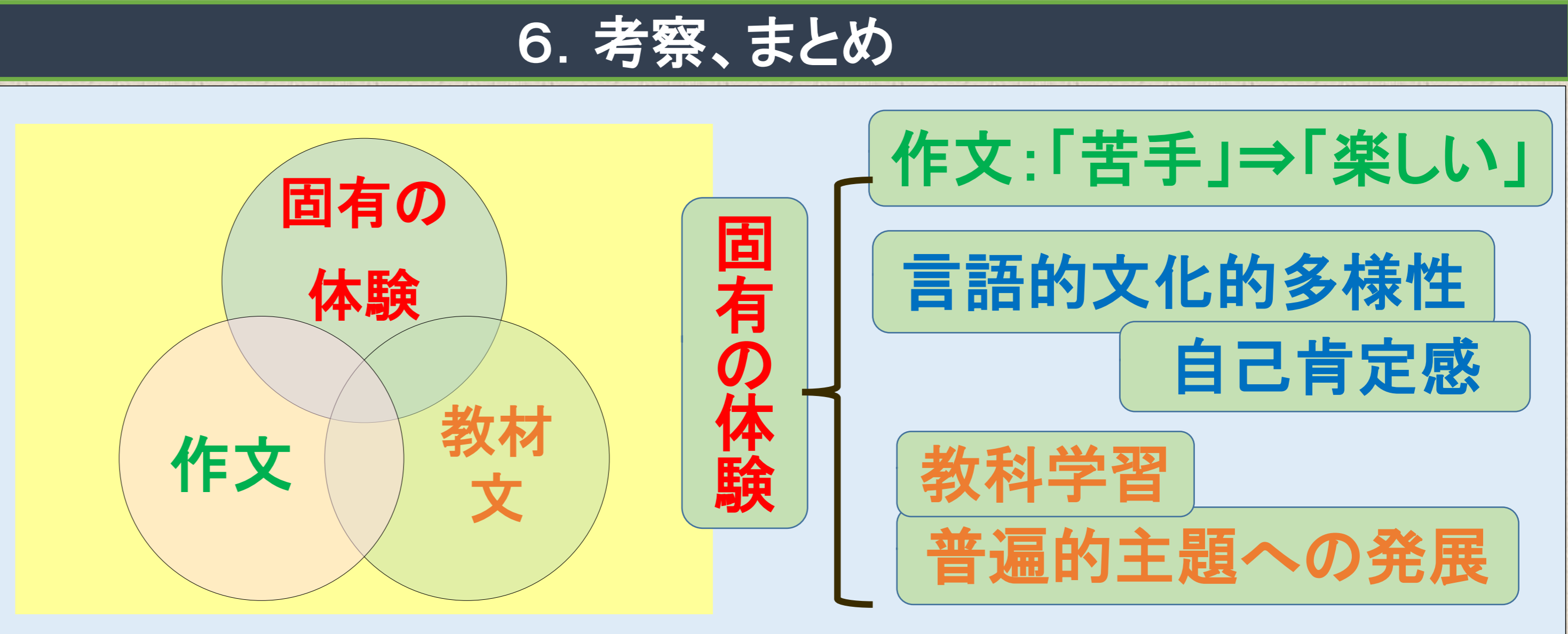
子どもが自発的に母語に切り替え

固有の体験⇔多様性:母語/母国&日本/日本語

分析 5.3 体験と教材文とのつながり

教材文:雁の頭領「残雪」	Y:ニワトリの頭領「大黒」
翼に真っ白な交じり毛	黒、白、薄茶、橙色等の混じり毛
大きな羽で敵を強打	偉そうに歩く、不意に襲撃
鳥とは思えない知恵と統率力	一回り大きな体、そっくり返った首
仲間を守る責任感、勇敢	高く跳び上がる、高く澄んだ声

固有の体験+作文⇔実感、興味+教材文(普遍的主题)



【引用文献】
 岡崎敏雄(1997)「日本語・母語相互育成学習のねらい」『平成8年度外国人児童生徒指導資料』茨城県教育庁指導課, 1-7.
 齋藤ひろみ(2001)「実践報告 日本語学習初期段階における作文指導について考える—63期子どもクラスの作文の授業実践を基に—」『中国帰国者定着促進センター紀要』9, 財団法人中国残留孤児援護基金, 92-135.
 菅原雅枝・齋藤ひろみ(2016)「日本生育外国人児童の「表現の力」に関する縦断調査—作文の分析を通して—」『国際教育評論』13, 東京学芸大学国際教育センター.
 Cummins, J. & Early, M. (2011). *Identity Texts: The Collaborative Creation of Power in Multilingual Schools*. Stoke on Trent, England: Trentham Books.
 Mehan, H. (1985). The Structure of Classroom Discourse. In T.A. Van Dijk, *Handbook of Discourse Analysis(vol.3). Discourse and Dialogue*, 119-131, London: Academic Press.
 Nessel, D. D. & Dixon, C. N. (2008). *Using the Language Experience Approach with English Language Learners: Strategies for Students and Developing Literacy*. Thousand Oaks, California: Corwin Press.